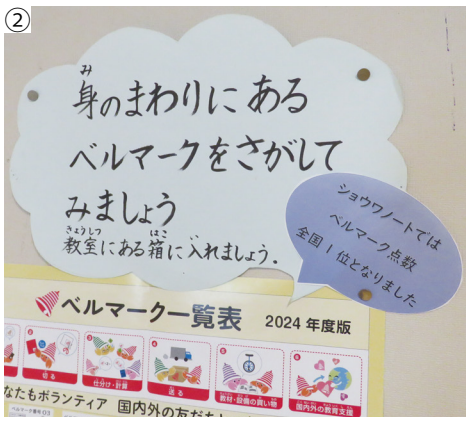
Bellmark Shimbun
ベルマーク新聞 8月号
発行　公益財団法人 ベルマーク教育助成財団　東京都墨田区両国3-25-5　JEI両国ビル9階　〒130-0026　電話 03-5638-2320（代表）
郵便振替口座 00100-7-56035　ホームページ https://www.bellmark.or.jp/

マークの山は「勉強を頑張った証」

ショウワノートの第50回ベルマークキャンペーン表彰式

①

②


③

①表彰式に参加した皆さん。前列左から3番目がショウワノートの氷鉋富雄社長。たくさんの記念品とともに　②手書きのポップでベルマーク収集を呼びかけ　③廊下にはカートリッジ用の大きなボックスが置いてある

協賛会社のショウワノート（ベルマーク番号53）が実施した「第50回ベルマークキャンペーン」の表彰式が6月27日、東京都世田谷区にある田園調布雙葉小学校（筒井三都子校長、児童732人）で開かれました。ベルマーク活動を担う保護者や先生方、ショウワノートの氷鉋富雄社長や関係者が視聴覚室に集まり、同校に感謝状や記念品が授与されました。

「ベルマークキャンペーン」は、ショウワノート製品に付いているベルマークをたくさん集めた小学校を表彰するものです。50回目となった今回、全国1位になった田園調布雙葉小学校は昨年1年間で1万1915点のマークを集めました。

同校にはPTA組織がなく、1クラスにつき1人選出される学年幹事の保護者がベルマークを仕分け・集計します。うち4年生の学年幹事3人が、回収の呼びかけから発送までのまとめ役をします。そのため、この表彰式には、昨年度の4年生学年幹事が保護者代表として出席しました。

表彰式で、ショウワノートの氷鉋社長は「今回、キャンペーンに参加した約8200小学校の頂点に立ったことはとても喜ばしいこと。プレゼントの百科事典やノートなどをぜひ子どもたちに使ってもらえたら嬉しい」と感謝を述べました。保護者代表は「ショウワノートの商品は子どもの頃から身近な存在。これからも素敵な商品を作り続けていただけることを楽しみにしています」とあいさつしました。

◇

田園調布雙葉小では各クラスに、年間を通して回収箱を置いてあります。年に2回、学年幹事が集計するタイミングに合わせて「強化週間」を設け、おうちで集めたマークを持ってきてもらうよう促します。クラスによっては、ショウワノートがホームページで公開している台紙を置いて、マークを見つけたらすぐに集められるよう意識を高めているそうです。

そうして集まったショウワノートのベルマークを集計した保護者は、「圧倒的な数に驚くとともに、『こんなにたくさん勉強して、頑張ったね』という気持ちにもなりました」。また、学校のベルマーク担当をしている宮路親人教頭は「子どもたちや学校にできることは何かを考え、惜しみなく力を注いでくれる保護者の皆さんの姿を拝見し、毎回感銘を受け、感謝しています」と話しました。今後は、貯めたベルマーク預金で、体育用品などの「全校生徒が触れられるもの」の購入を検討したいとのことでした。

◇

ショウワノートは現在、「第51回ベルマークキャンペーン」を実施しています。2024年1月1日から12月31日の1年間に財団で検収をした同社のベルマークが対象です。エントリーは必要なく、点数は自動的に集計されます。1年間に3000点以上集めた小学校が表彰の対象となり、さらに上位入賞すると表彰状や記念品、学習帳などがもらえます。

今年もキャンペーンを実施しているよ!!

東北から感謝メッセージ届く

昨年度の支援対象校、宮城・気仙沼市立気仙沼小

宮城県の気仙沼市立気仙沼小学校（小野寺貴子校長、児童236人）からメッセージが届きました。昨年度の東日本大震災被災校支援の対象校です。

同校に贈ったのはCDラジオ6台。「コロナ禍が落ち着き、学級で歌う機会が増えてきました。月に1回の音楽朝会も再開したところです」と近況を教えてくれたのは小野寺校長です。「古くなっていたこともあり、子どもも教職員も操作しやすいCDラジオを希望しました」とのことで、これからますます活用の機会が増えそうです。

宮城県の北東端、太平洋側の三陸沖に面している気仙沼市。複雑に入り組むリアス式海岸が特徴の地域で、気仙沼小から気仙沼漁港までは車で5分という近さです。同校は東日本大震災で、壁や天井の一部が倒壊する被害を受け、体育館や15の教室が避難所になりました。

気仙沼小から南に1kmほどの位置にあったのが南気仙沼小学校。近くを流れる大川からの津波被害が大きく、校舎が使えなくなってしまったため、震災直後から気仙沼小の校舎を借りる必要がありました。その後、もとの校舎は解体することが決まり、気仙沼小に統合されることになりましたが、その際に移設されたのが「友情の鐘」。大切に受け継がれてきた鐘は、現在も校庭にたたずみ、子どもたちを見守っています。

財団が寄贈したCDラジオを操作する児童